

## 第2回ワークショップで出た主な意見と区からの回答 ～西宮中学校の改築と老朽化した周辺施設の更新等に関する検討～

第2回ワークショップ（5月25日開催）で皆さまからいただいたご質問・ご意見の中で、特に多くの方からいただいたご意見について回答します。

**Q① 西宮中学校・宮前図書館改築検討懇談会（以下、改築検討懇談会という）の議論はどのように生かされるのか、改築検討懇談会の議論はなかったものとしてワークショップを行うのか。**

**A① 改築検討懇談会の議論の取り扱いについては、以下の通りと考えています。**

○改築検討懇談会では、今後集中的に区立施設が改築を迎える中、施設の複合化・多機能化や効率的な施設整備の必要性については一定の参加者から理解を得られた一方、中学校の敷地が決して広くない中、規模が比較的大きな図書館との複合化を行った場合の学校運営への影響を不安視する意見が多く寄せられました。

○また、区が検討していた施設整備パターンとして、中学校と図書館の複合化以外にも、「中学校と集会施設の複合化」や、「中学校を単独として図書館と集会施設を複合化」する案をお示ししました。そこでは、「中学校の敷地面積を考えると図書館との複合化は難しいのではないか」といったご意見を多くいただきました。また、「集会施設と複合化した場合は、現在の中学校は地域全体で支えられているため、地域人材との連携・交流がしやすいのではないか」、「これからの図書館が人との交流や対話の場として期待されることから図書館と集会施設の複合化は効果が見込まれるのではないか」といったご意見をいただきました。こうしたご意見等を踏まえ、様々な視点から検討した結果、中学校・図書館に限らず、周辺の区立施設を含む地域全体の施設整備等について検討を進めていく観点から、改めて検討することとしました。

○これを受けて新たな検討の場として開催しているのが今回のワークショップです。このため、今回のワークショップでは、これまで改築検討懇談会でいただいたご意見等をベースに、周辺施設への対応を含めて改めて区民の皆さんと共に考える場として実施していきます。

Q② 西宮中学校の生徒数・学級数の予想について、マンションの建設や戸建住宅の増加に加え、校舎が新しくなり人気が出ることにより、増加することも考えられる。より実情を踏まえた推計はできないか。

A② 推計については、以下の通りと考えています。

○生徒数・学級数の予想については、区の将来人口推計に基づき、転入・転居、転出の予想についても加味したものとなっています。また、大規模マンション等の個別計画については、建築確認申請等の情報を収集し、数値の補正も行っています。

○ただし、数年先にマンションがどれくらい建つかをあらかじめ想定して予想することは難しい実態がありますので、大規模マンションの建設により中学1年生から3年生の年齢層が急増することがあるか、東京都教育庁が示している生徒出現率を用いて予想してみます。

仮に100戸の民間マンションが同じ時期に3棟建設された場合の1学年当たりの生徒増加数

中学1年生：300戸×生徒出現率（0.008）＝2.4人

中学2年生：300戸×生徒出現率（0.007）＝2.1人

中学3年生：300戸×生徒出現率（0.007）＝2.1人

上記より、仮に100戸の民間マンションが同じ時期に3棟建設された場合であっても、各学年の年齢層が2～3人増える程度にとどまり、全員公立校に通った場合でも、学級数を増やすほど急増することは無いと考えられます。また、転入・入居してきても国立私立等に引き続き通学する、入学することも考えられます。

○また、過去の改築校における実績から、学校（校舎）が新しくなることによって、国立・私立への進学者が若干減少する傾向がみられますが、学級編制に大きな影響はないと考えています。

○なお、隣接校（神明中学校、宮前中学校、富士見丘中学校）の学区域の生徒については、学校の特色ある教育活動に参加を志望する場合、15人まで受入れができることになっていますが、新しい学校（校舎）に通いたい、という理由だけでは指定校の変更をすることはできません。

○普通教室の数等については、令和7年度に開催予定の改築検討懇談会の中で決定していくとともに、予想を上回った場合に普通教室に転用できる諸室等の整備についても考えていきます。